

3. 出来形及びできばえ II. 品質 成績評定工種選択表及び結果表

該当する工種を次の事項に留意しながら選択してください。

留意事項

- ※1: 全体の概ね7割以上を占める工種がある場合は、原則その1工種が選択の対象となります。
 ※2: 複数工種選択する必要がある場合は、3工種まで選択が可能です。その場合、代表的な工種の「主たる工種」覧にチェックしてください。
 ※3: 「主たる工種」が選択された場合、「3. 出来形及びできばえ II. 品質」におけるばらつきは、「主たる工種」の判断基準が適用されます。
 ※4: 「主たる工種」が選択されない場合は、選択された複数工種の中の最も低い判断基準が適用されます。
 ※5: 上記により難く、検査員の判断基準を適用することが望ましい場合は、下覧「ばらつき入力欄」に入力願います。
 ※6: ①～24のいずれか1工種を選択した場合は、25は選択できません。
 ※7: 24を1工種だけ選んだ場合、又は24を主たる工種として選んだ場合は、ばらつきによる評価を行わず、適合率のみで評価を行います。

検査員 選択	主たる工種	選択されていません		
	選択工種	24		
	ばらつき判定			

品質

主たる工種	選択工種	工 種
☐	☐	① コンクリート構造物
☐	☐	② 土工事
☐	☐	③ 護岸・根固・水制工事
☐	☐	④ 鋼橋工事(RC床版工事はコンクリート構造物に準じる)
☐	☐	⑤ 砂防構造物工事及び地滑り防止工事(集水井工事を含む)
☐	☐	⑥ 舗装工事
☐	☐	⑦ 法面工事
☐	☐	⑧ 基礎工事及び地盤改良工事
☐	☐	⑨ コンクリート橋上部工事
☐	☐	⑩ 塗装工事
☐	☐	⑪ トンネル工事
☐	☐	⑫ 植栽工事
☐	☐	⑬ 造園工事
☐	☐	⑭ 防護柵(網)・標識・区画線等設置工事
☐	☐	⑮ 下水道管路工事
☐	☐	⑯ 下水道更生工事
☐	☐	⑰ 水路・側溝等(コンクリート二次製品)工事
☐	☐	⑱ 機械設備工事
☐	☐	⑲ 電線共同溝工事
☐	☐	⑳ 維持工事(清掃工、除草工、付属物工、除雪、応急処理工)
☐	☐	㉑ 修繕工事(橋脚補強、耐震補強、落橋防止等)
☐	☐	㉒ 電気設備工事
☐	☐	㉓ 通信設備工事・受変電設備工事
☐	☒	㉔ 上水道配管工事
☐	☐	㉕ 上記以外の工事(情報ボックス、浚渫工事等)又は合併施工

※ ⑱機械設備工事、㉒電気設備工事、㉓通信設備工事・受変電設備工事については、その他の土木工種に付帯して施工される場合にのみ選択できます。単独で発注された機械設備工事、電気設備工事、通信設備工事・受変電設備工事の場合は、「仙台市工事成績評定要領」別添2「工事成績評定採点表(営繕)」により評定願います。

品質

◎検査員 自らが、ばらつきの判定を行う場合は、下の該当箇所にチェックしてください

- ☐ ばらつきが50%以下と判断できる。
☐ ばらつきが80%以下と判断できる。
☐ ばらつきが80%を超えると判断できる。
☐ ばらつきによる判断は不可能である。

検査員 評定内容

(以下の評定内容については、完成検査を実施し、評定した場合についてのみ、表示される。)

評価対象項目(1)

評価項目(2)

ばらつき

適合率

判定

3. 出来形及びできばえ Ⅲ. 出来ばえ 成績評定工種選択表及び結果表

該当する工種を次の事項に留意しながら選択してください。

留意事項

- ※1 前頁の「Ⅱ. 品質」とは、構成が異なっておりますので、改めて選択する必要があります。
- ※2 全体の概ね7割以上を占める工種がある場合は、原則その1工種が選択の対象となります。
- ※3 複数工種選択する必要がある場合は、3工種まで選択が可能です。この場合、選択した工種全体の適合率により、評価することになります。
- ※4 複数工種選択した場合の評価基準は下表のとおりです。
- ※5 ①～23 のいずれか1工種を選択した場合は、24 は選択できません。

検査員 選択工種	23		
----------	----	--	--

出来ばえ

- ☐ ① コンクリート構造物、砂防構造物、トンネル工事
- ☐ ② 土工事(盛土・築堤工事等)
- ☐ ③ 切土工事
- ☐ ④ 護岸・根固・水制工事
- ☐ ⑤ 鋼橋工事
- ☐ ⑥ 砂防構造物工事及び地すべり防止工事
- ☐ ⑦ 舗装工事
- ☐ ⑧ 法面工事
- ☐ ⑨ 基礎工事 (地盤改良等を含む)
- ☐ ⑩ コンクリート橋上部工事
- ☐ ⑪ 塗装工事(工場塗装除く)
- ☐ ⑫ 植栽工事
- ☐ ⑬ 造園工事
- ☐ ⑭ 防護柵(網)・標識・区画線等設置工事
- ☐ ⑮ 下水道管路工事
- ☐ ⑯ 下水道更生工事
- ☐ ⑰ 水路・側溝等(コンクリート二次製品)工事
- ☐ ⑱ 機械設備工事
- ☐ ⑲ 電線共同溝工事
- ☐ ⑳ 維持工事(清掃工、除草工、付属物工、除雪、応急処理工)修繕工事(橋脚補強、耐震補強、落橋防止等)
- ☐ 21 電気設備工事
- ☐ 22 通信設備工事・受変電設備工事
- ☒ 23 上水道配管工事
- ☐ 24 上記以外の工事(情報ボックス、浚渫工事等)又は合併施工

※ ⑱機械設備工事、21電気設備工事、22通信設備工事・受変電設備工事については、その他の土木工種に付帯して施工される場合にのみ選択できます。単独で発注された機械設備工事、電気設備工事、通信設備工事・受変電設備工事の場合は、「仙台市工事成績評定要領」別添2「工事成績評定採点表(営繕)」により評定願います。

出来ばえ (以下の評定内容については、完成検査を実施し、評定した場合についてのみ、表示される。)

検査員 評定内容

- i 評価対象項目数 11
- ii 該当項目数
- iii 適合率

判定

評価基準

- i 1項目のみ選定の場合は
別紙3-54～により算定(i・ii・iii適用外)
- ii 複数項目選定の場合は下記により算定
- 適合率80%以上.....a
- 適合率60%以上80%未満.....b
- 適合率40%以上60%未満.....c
- 適合率40%未満.....d

考査項目別運用表

(検査員)

考査項目	細別	a	b	c	d	e
2. 施工状況	I. 施工管理	適切である	ほぼ適切である	他の評価に該当しない	やや不適切である	不適切である
	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ↑ 削除する項目に ●評価対象項目 ☐ 契約書第18条第1項第1号～5号に基づく設計図書の照査を行っていることが確認できる。 ☐ 施工計画書が工事着手前に提出され、所定の項目が記載されているとともに、設計図書の内容及び現場条件を反映したものと なっていることが確認できる。 ☐ 工事期間を通じて、施工計画書の記載内容と現場施工方法が一致していることが確認できる。 ☐ 現場条件及び計画内容に変更が生じた場合は、その都度当該工事着手前に変更計画書を提出していることが確認できる。 ☐ 工事材料の品質に影響が無いよう工事材料を保管していることが確認できる。 ☐ 立会確認の手続きを事前に行っていることが確認できる。 ☐ 建設副産物の再利用等への取り組みを行っていることが確認できる。 ☐ 施工体制台帳及び施工体系図を法令等に沿った内容で的確に整備していることが確認できる。 ☐ 下請けに対する引き取り(完成)検査を書面で実施していることが確認できる。 ☐ 品質証明体制が確立され、品質証明員による関係書類、出来形、品質等の確認を工事全般にわたって行っていることが確認できる。 ☐ 工事の関係書類を不足なく完結に整理していることが確認できる。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 ☐ その他 ●判断基準 評価値が90%以上.....a 評価値が80%以上90%未満.....b 評価値が80%未満.....c ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目がある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝当該項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。 ☐ 施工体制一般に関して、監督職員が文書による改善指示を行った。 ☐ 施工体制一般に関して、監督職員からの文書による改善指示に従わなかった。					

考查項目別運用表

(検査員)

考查項目	工種	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ		●工種の選択 ☐ 土木工事(共通) ☒ 上水道配管工事						
I. 出来形	土木工事(共通)	a 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を概ね50%以内で、下記の「評定項目」の4項目以上が該当する。	a' 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を概ね50%以内で、下記の「評定項目」の3項目以上が該当する。	b 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を概ね80%以内で、下記の「評定項目」の3項目以上が該当する。	b' 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を概ね80%以内で、下記の「評定項目」の2項目以上が該当する。	c 出来形の測定が、必要な測定項目について所定の測定基準に基づき行われており、測定値が規格値を満足し、a～b'に該当しない。概ね50%以内で2項目未満	d ☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	e ☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
●評価対象項目 ☐ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 ☐ 不可視部分の出来形が写真で確認できる。 ☐ 写真管理基準の管理項目を満足している。 ☐ 出来形管理基準が定められていない工種について、監督職員と協議の上管理していることが確認できる。 ☐ その他 ●ばらつき程度(該当する項目ひとつにシ点) ☐ ばらつきが50%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%以下と判断できる。 ☐ その他(上記に該当しない。) ① 出来形は、工事全般を通じて評定するものとする。 ② 出来形とは、設計図書に示された工事的目的の計上及び寸法をいう。 ③ 出来形管理とは、「土木工事施工基準」の測定項目、測定基準及び規格値に基づき所定の出来形を確保する管理体系である。 ④ 出来形管理項目を設定していない工事は「c」評価とする。 出来形及び品質のばらつきの考え方 [管理図の場合] (上・下限値がある場合) ①ばらつきが50%以下と判断できる例 ②ばらつきが80%以下と判断できる例 (下限値のみの場合) [度数表またはヒストグラムの場合] ばらつきが小さい ばらついている ばらつきが大きい								

考査項目別運用表

							(検査員)	
考査項目	工種	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ I. 出来形	上水道配管工事	(評価対象項目) ☐ 出来形管理が容易に把握できるよう、出来形管理図及び出来形管理表を工夫していることが確認できる。 ☐ 社内の管理基準に基づき管理していることが確認できる。 ☐ 不可視部分の出来形が写真で確認できる。 ☐ 写真管理基準の管理項目を満足している。 ☐ 出来形管理基準が定められていない工種について、監督員と調整の上管理していることが確認できる。 ☐ 要求した完成図等が適切にまとめられており、確認出来る。 ☐ 配水管付属設備等の出来形が要求を満足するものである。 ☐ 出来形について確認出来る記録・資料等が整っている。 ☐ その他(理由:)					☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 出来形の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
	↑ 削除する項目に示す	※ 評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ※ 適合率が90%以上.....a ※ 適合率が80%以上～90%未満...a' ※ 適合率が70%以上～80%未満...b ※ 適合率が60%以上～70%未満...b' ※ 適合率が60%未満.....c						

27

28

考查項目別運用表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																							
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	④ 鋼橋工事 (RC床版工事はコンクリート構造物に準ずる)	※ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。＜判断基準参照(P19)＞ 〔関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験〕					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。																							
●評価対象項目 【工場製作関係】 ☐ 鋼材の種類を、品質を証明する書類又は現物により照合していることが確認できる。 ☐ 溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。 ☐ 溶接作業にあたり、溶接材料の使用区分が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 溶接施工に係る施工計画書を提出していることが確認できる。 ☐ 孔空けによって生じたまくれが削り取られているなど、きめ細やかに製作していることが確認できる。 ☐ 欠陥部の発生が見られないことが確認できる。 ☐ 塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。 ☐ 素地調整を行う場合、第一種ケレン後4時間以内に金属前処理塗装を実施していることが確認できる。 ☐ 塗料の空き缶管理について、写真等で確実に空いていることが確認できる。 ☐ 塗料の出荷証明書、塗料成績表により、製造年月日、ロット番号、色彩、数量が確認できる。 ☐ その他 理由： ↑ 削除する項目にレ点 ☐ 【架設関係】 ☐ ボルトの締め付け確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。 ☐ ボルトの締付機及び測定器のキャリブレーションを実施していることが確認できる。 ☐ 高力ボルトの締め付けを、中心から外側に向かって実施していることが確認できる。 ☐ 高力ボルトの品質が、証明書類で確認できる。 ☐ 支承の据付で、コンクリート面のチッピング及び仕上げ面に水切勾配がついていることが確認できる。 ☐ 架設にあたって、部材の応力と変形等を十分検討していることが確認できる。 ☐ 架設に用いる仮設備及び架空用機材について品質、性能が確保できる規模及び強度を有していることが確認できる。 ☐ 現場塗装部ケレン及び膜厚管理を適切に行っていることが確認できる。 ☐ 現場塗装において、温度、湿度、風速等の確認を行っていることが確認できる。 ☐ その他 理由： ↑ 削除する項目にレ点 ●ばらつきの程度(該当する項目ひとつにレ点) ☐ ばらつきが50%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%を超えると判断できる。 ☐ ばらつきによる判断は不可能である。 ① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目がある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝当該項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。 ●判断基準 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="2">ばらつきで判断不可能</th></tr><tr><th>50%以下</th><th>80%以下</th><th>80%を超える</th></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の打設点等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。				ばらつきで判断可能					ばらつきで判断不可能	50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c
				ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																								
		50%以下	80%以下	80%を超える																											
評価値	90%以上	a	a'	b	b																										
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'																										
	60%以上75%未満	b	b'	c	c																										
	60%未満	b'	c	c	c																										

考查項目別運用表

(検査員)

考查項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																																
3. 出来形及び出来ばえ	⑤ 砂防構造物及び地滑り防止工事(集水井工事をむ)	※ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照(P19)>〔関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験〕					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。																																
II. 品質		●評価対象項目																																						
		【共通】																																						
		☐ コンクリートの配合試験及び試験練を行っており、コンクリートの品質(強度・w/c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。																																						
		☐	☐	コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。																																				
		☐	☐	圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。																																				
		☐	☐	運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のバイブレーターの機種及び養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、定められた条件を満足していることが確認できる。(寒中及び暑中コンクリート等を含む)																																				
		☐	☐																																					
		☐	☐	コンクリートの圧縮強度を管理しており、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っている。																																				
		☐	☐	地山との取り合わせを適切に行っていることが確認できる。																																				
		☐	☐	鉄筋及び鋼材の品質が、証明書類で確認できる。																																				
		☐	☐	有害なクラックがない。																																				
		☐	☐	その他 理由:																																				
		↑																																						
		削除する項目にレ点																																						
		☐	☐	【砂防構造物に適用】																																				
		☐	☐	コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が、鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。																																				
		☐	☐	鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。																																				
		☐	☐	施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。																																				
		☐	☐	アンカーの施工が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。																																				
		☐	☐	ボルトの締付確認が実施され、記録を保管していることが確認できる。																																				
		☐	☐	その他 理由:																																				
		↑																																						
		削除する項目にレ点																																						
		☐	☐	【地滑り対策工事(抑止杭・集水井戸工事含む)】																																				
		☐	☐	アンカーの施工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。																																				
		☐	☐	ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。																																				
		☐	☐	ライナープレートと地山との隙間が少なくなるように施工していることが確認できる。																																				
		☐	☐	集・排水ボーリング工の方向及び角度が、適正となるように施工上の配慮をしていることが確認できる。																																				
		☐	☐	その他 理由:																																				
		↑																																						
		削除する項目にレ点																																						
		☐	☐	●ばらつきの程度(該当する項目ひとつにレ点)																																				
		☐	☐	ばらつきが50%以下と判断できる。																																				
		☐	☐	ばらつきが80%以下と判断できる。																																				
		☐	☐	ばらつきが80%を超えると判断できる。																																				
		☐	☐	ばらつきによる判断は不可能である。																																				
		① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目がある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = 当該項目数() / 評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。																																						
		●判断基準 <table><tr><td></td><td></td><td colspan="3">ばらつきで判断可能</td><td rowspan="2">ばらつきで判断不可能</td></tr><tr><td></td><td></td><td>50%以下</td><td>80%以下</td><td>80%を超える</td></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table>									ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能			50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																			
		50%以下	80%以下	80%を超える																																				
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																			
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'																																			
	60%以上75%未満	b	b'	c	c																																			
	60%未満	b'	c	c	c																																			

考査項目別運用表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ	⑥ 舗装工事	※ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照(P19)> [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験]					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
II. 品質		●評価対象項目 【路床・路盤工関係】 ☐ 設計図書に定められた試験方法でCBR値を測定していることが確認できる。 ☐ 路床及び路盤工のブルーフローリングを行っていることが確認できる。 ☐ 路床及び路盤工の密度管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 路盤の安定処理は材料が均一になるよう施工していることが確認できる。 ☐ 路盤の施工に先立って、路床面、下層路盤面の浮き石及び有害物を除去してから施工していることが確認できる。 ☐ 路床盛土において、一層の仕上がり厚を20cm以下とし、各層ごとに締固めて施工していることが確認できる。 ☐ 路床盛土において、構造物の隣接箇所や狭い箇所における締め固めが、タンバ等の小型締固め機械により施工していることが確認できる。 ☐ その他 理由:						
	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ↑ 削除する項目にレ点	【アスファルト舗装工関係】 ☐ アスファルト混合物の品質が、配合設計及び試験練りの結果又は事前審査制度の証明書類により確認できる。 ☐ 舗装工の施工にあたって、上層路盤の浮き石などの有害物を除去していることが確認できる。 ☐ プラント出荷時、現場到着時、舗設時等において、アスファルト混合物の温度管理を記録していることが確認できる。 ☐ 舗設後の交通開放が、定められた条件を満足していることが確認できる。 ☐ 各層の継ぎ目の位置が、設計図書に定められた数値以上であることが確認できる。 ☐ 縦継目及び横継目の位置、構造物との接合面の処理等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ アスファルト混合物の運搬及び舗設にあたって、気象条件を配慮していることが確認できる。 ☐ 密度管理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ その他 理由:						
	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ↑ 削除する項目にレ点	【コンクリート舗装工関係】 ☐ コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度・w/c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。 ☐ 舗装工の施工に先立って、上層路盤面の浮き石等の有害物を除去してから施工していることが確認できる。 ☐ コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。 ☐ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が当該現場の供試体であることが確認できる。 ☐ 運搬時間、打設方法及び養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。 ☐ 材料が分離しないようコンクリートを敷均していることが確認できる。 ☐ チェアー及びタイバーを損傷などが発生しないよう保管していることが確認できる。 ☐ その他 理由:						
	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ↑ 削除する項目にレ点	●ばらつきの程度(該当する項目ひとつにレ点) ☐ ばらつきが50%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%を超えると判断できる。 ☐ ばらつきによる判断は不可能である。						

① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。
 ② 削除項目がある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。
 ③ 評価値(%) = 当該項目数() / 評価対象項目数()
 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。

●判断基準

		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能
		50%以下	80%以下	80%を超える	
評価値	90%以上	a	a'	b	b'
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'
	60%以上75%未満	b	b'	c	c
	60%未満	b'	c	c	c

注 試験結果の打設点等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

注 試験結果の打設点等が少なくばらつき判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。

考査項目別運用表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e																														
3. 出来形及び出来ばえ	⑧ 基礎工事及び地盤改良工事	※ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照(P19)> 〔関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験〕					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。																														
II. 品質		●評価対象項目 【杭関係(コンクリート・鋼管・鋼管井筒・場所打、深礎等)】 ☐ 杭に損傷及び補修痕がないことが確認できる。 ☐ 既成杭の打止め管理の方法及び場所打杭の施工管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。 ☐ 杭頭処理において、杭本体を損傷していないことが確認できる。 ☐ 水平度、鉛直度等が、設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ 溶接の品質管理に関して、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 支持地盤に達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。 ☐ 場所打杭について、トレミー管をコンクリート内に2m以上挿入して施工していることが確認できる。 ☐ 掘削深度、排出土砂、孔内水位の変動及び安定液を用いる場合の孔内の安定液濃度並びに比重等が、設計図書を満足していることが確認できる。 ☐ 配筋、スパーサーの配置及びコンクリート打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。 ☐ 裏込材注入の圧力などが施工記録により確認できる。 ☐ 強度確認、セメントミルクの比重管理などの品質に係わる事項の管理資料を整理していることが確認できる。 ☐ その他 理由: }																																				
		【地盤改良関係】 ☐ 改良材のバッチ管理記録が整理され、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ セメントミルクの比重、スラリー噴出量、強度等の管理資料を整理していることが確認できる。 ☐ 事前に土質試験を実施し、改良材の選定、必要添加量の設定等を行っていることが確認できる。 ☐ 施工箇所が均一に改良されているとともに、十分な強度及び支持力を確保していることが確認できる。 ☐ その他 理由: }																																				
		●ばらつきの程度(該当する項目ひとつにレ点) ☐ ばらつきが50%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%を超えると判断できる。 ☐ ばらつきによる判断は不可能である。																																				
① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目がある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%) = 当該項目数() / 評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。 ●判断基準 <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">ばらつきで判断可能</th><th rowspan="2">ばらつきで判断不可能</th></tr><tr><th>50%以下</th><th>80%以下</th><th>80%を超える</th></tr><tr><td rowspan="4">評価値</td><td>90%以上</td><td>a</td><td>a'</td><td>b</td><td>b</td></tr><tr><td>75%以上90%未満</td><td>a'</td><td>b</td><td>b'</td><td>b'</td></tr><tr><td>60%以上75%未満</td><td>b</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td></tr><tr><td>60%未満</td><td>b'</td><td>c</td><td>c</td><td>c</td></tr></table> 注 試験結果の打設点等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目(評価値)だけで評価する。											ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能	50%以下	80%以下	80%を超える	評価値	90%以上	a	a'	b	b	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'	60%以上75%未満	b	b'	c	c	60%未満	b'	c	c	c
		ばらつきで判断可能			ばらつきで判断不可能																																	
		50%以下	80%以下	80%を超える																																		
評価値	90%以上	a	a'	b	b																																	
	75%以上90%未満	a'	b	b'	b'																																	
	60%以上75%未満	b	b'	c	c																																	
	60%未満	b'	c	c	c																																	

34

35

36

37

38

39

考査項目別運用表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	20 維持工事 (清掃工、除草工、 付属物工、除雪、 応急処理等)	※ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。＜判断基準参照(P19)＞ ●評価対象項目 ☐ 使用する材料の品質・形状等が適切であり、かつ現場において材料確認を適宜・的確に行っていることが確認できる。 ☐ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。 ☐ 監督職員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。 ☐ 緊急的な作業において、迅速かつ適切に対応していることが確認できる。 ☐ _____ ☐ _____ ☐ _____ ☐ _____ ●ばらつきの程度(該当する項目ひとつにレ点) ☐ ばらつきが50%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%を超えると判断できる。 ☐ ばらつきによる判断は不可能である。 注 記載の4項目を必須の対象項目とし、この他に適宜項目を追加して評価するものとする。 ただし、評価対象項目は最大8項目とする。					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
評価項目を追加した場合	↑							
	21 修繕工事 (橋脚補強、耐震補強、落橋防止等)	※ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。＜判断基準参照(P19)＞ ●評価対象項目 ☐ 使用する材料の品質・形状等が適切であり、かつ現場において材料確認を適宜・的確に行っていることが確認できる。 ☐ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。 ☐ 監督職員の指示事項に対して、現地状況を勘案し、施工方法や構造についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。 ☐ 施工後のメンテナンスに対する提言や修繕サイクル等を勘案した提案等を行っていることが確認できる。 ☐ _____ ☐ _____ ☐ _____ ☐ _____ ●ばらつきの程度(該当する項目ひとつにレ点) ☐ ばらつきが50%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%を超えると判断できる。 ☐ ばらつきによる判断は不可能である。 注 記載の4項目を必須の対象項目とし、この他に適宜項目を追加して評価するものとする。 ただし、評価対象項目は最大8項目とする。					☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
評価項目を追加した場合	↑							

考査項目別運用表

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e
3. 出来形 及び 出来ばえ	⑩ 機械設備工 事	優れている ※ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。＜判断基準参照(P19)＞ ●評価対象項目 ☐ 材料、部品の品質照合の書類(現物照合)を整理し品質の確認ができる。 ☐ 設備の機能及び性能が、承諾図書のとおり確保され、品質の確認ができる。 ☐ 設計図書の仕様を踏まえた詳細設計を行い、承諾図書として提出していることが確認できる。 ☐ 機器の機能及び性能に係わる成績書が整理され、品質の確認ができる。 ☐ 溶接管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。 ☐ 塗装管理基準の品質管理項目について、品質管理書類を整理し品質の確認ができる。 ☐ 操作制御設備について、操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性にすぐれていることが確認できる。 ☐ 操作制御設備の安全装置及び保護装置の機能・性能確認試験について、試験書類を整理し品質の確認ができる。 ☐ 小配管、電気配線、配管が承諾図書のとおり敷設していることが確認できる。 ☐ 設備の取扱説明書を工夫していることが確認できる。 ☐ 完成図書(取扱説明書)に部品等の点検及び交換方法について、まとめていることが確認できる。 ☐ 機器の配置が点検しやすいよう工夫していることが確認できる。 ☐ 設備の構造や機器の配置が、交換頻度の高い部品等の交換作業を容易にできるよう工夫していることが確認できる。 ☐ 二次コンクリートの配合試験及び試験練りを実施し、試験成績表にまとめていることが確認できる。 ☐ パルプ類の平時の状態を示すラベルなどが見やすい状態で表示していることが確認できる。 ☐ 計器類に運転時の適用範囲を見やすく表示していることが確認できる。 ☐ 回転部や高温部等の危険箇所に表示又は防護をしていることが確認できる。 ☐ 構造物の劣化状況をよく把握して、適切な対策を施していることが確認できる。 ☐ 現地状況を勘案し、施工方法等についての提案を行うなど積極的に取り組んでいることが確認できる。 ☐ その他	bより優れている やや優れている cより優れている 他の評価に該当しない	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。			
II. 品質	☐ 削除する項目にレ点 ↑	☐ ばらつきが50%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%を超えると判断できる。 ☐ ばらつきによる判断は不可能である。	① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目がある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝当該項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。					
22 電気設備工 事	工 種 ☐ 削除する項目にレ点 ↑	優れている ※ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。＜判断基準参照(P19)＞ ●評価対象項目 ☐ 製作着手前に、品質や性能の確保に係る技術検討が実施していることが確認できる。 ☐ 材料・部品の品質照合の結果が品質保証書等(現物照合を含む)で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 機器の品質、機能及び性能が設計図書を満足して、成績書にまとめられていることが確認できる。 ☐ 操作スイッチや表示灯が承諾図書のとおり配置され、操作性に優れていることが確認できる。 ☐ ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合が無いことが確認できる。 ☐ 設備の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 操作制御関係の機能及び性能が、設計図書の仕様を満足しているとともに、必要な安全装置及び保護装置の作動が確認できる。 ☐ 設備の総合性能が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 ☐ 現場条件によって機器(製品)の機能及び性能が確認できない場合において、工場試験などで確認していることが確認できる。 ☐ 設備全体についての取扱説明書を工夫し作成(修繕(改造・更新含む)の場合は、修正又は更新)していることが確認できる。 ☐ 完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示していることが確認できる。 ☐ 設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫していることが確認できる。 ☐ その他	bより優れている やや優れている cより優れている 他の評価に該当しない	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。			
	☐ 削除する項目にレ点	☐ ばらつきが50%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%以下と判断できる。 ☐ ばらつきが80%を超えると判断できる。 ☐ ばらつきによる判断は不可能である。	① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目がある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝当該項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。					

考查項目別運用表

(検査員)

考查項目	工 種	a		a'	b	b'	c	d	e
		優れている		bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督職員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査職員が修補指示を行った。
3. 出来形及び出来ばえ II. 品質	23 通信設備工事	※ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。＜判断基準参照(P19)＞						① 当該「評価対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目がある場合は削除後の評価項目数を母数として計算した比率(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値(%)＝当該項目数()／評価対象項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は c 評価とする。	
	受変電設備工事								
	☐	☐ ●評価対象項目							
	☐	☐ 設計図書に定められている品質管理を実施していることが確認できる。							
	☐	☐ 材料及び構成部品の品質及び形状について、設計図書等と適合が確認できる証明書等を整備していることが確認できる。							
	☐	☐ 材料の品質照合の結果が、品質保証書等(現物照合を含む)で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。							
	☐	☐ 設備、機器の品質、機能及び性能が、成績等で確認でき、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。							
	☐	☐ ケーブル及び配管の接続などの作業が、施工計画書に記載された手順に沿って行われ、不具合が無いことが確認できる。							
	☐	☐ 設備全体としての運転性能が所定の能力を満足していることが確認できる。							
	☐	☐ 完成図書において、設備の機能並びに性能及び操作方法が容易に判別できる資料を整備していることが確認できる。							
	☐	☐ 完成図書において、単体品の製造年月日及び製造者が判別できる資料を整備していることが確認できる。							
	☐	☐ 設備全体及び各機器において、設計図書に規定した品質及び性能を工場試験記録により確認できる。							
	☐	☐ 設備全体についての取扱説明書を工夫していることが確認できる。							
	☐	☐ 完成図書で定期的な点検や交換を要する部品及び箇所を明示していることが確認できる。							
☐	☐ 設備の構造において、点検や消耗品の取替え作業が容易にできるよう工夫していることが確認できる。								
	☐ その他								
削除する項目にレ点		●ばらつきの程度(該当する項目ひとつにレ点)							
		☐ ばらつきが50%以下と判断できる。							
		☐ ばらつきが80%以下と判断できる。							
		☐ ばらつきが80%を超えると判断できる。							
		☐ ばらつきによる判断は不可能である。							

考査項目別運用表

(検査員)

考査項目	工 種	a	a'	b	b'	c	d	e	
3. 出来形及び出来ばえ	24上水道配管工事	優れている	bより優れている	やや優れている	cより優れている	他の評価に該当しない	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、監督員が文書で指示を行い改善された。	☐ 品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。	
Ⅱ. 品質		●評価対象項目 (共通) ☐ 材料の品質規格証明書等が整備され、設計図書の品質を満足していることが確認できる。 ☐ 仕様書等で定められている品質管理試験が適切に実施され記録が整備されている。 ☐ 管の明示(明示テープ・明示シート)の施工が適切に実施されていることが確認できる。 ☐ ポリエチレンスリーブ被覆工及び分水部の外面防食が適切に実施されていることが確認出来る。 ☐ 鉄蓋設置においては、構造物に堅固に取り付けられ、かつ路面との調整も適正である。 ☐ 弁室・栓室等は、有害なひび割れ、損傷等の欠点はない。 ☐ 埋戻しについて、仕様書どおり適切に施工されていることが確認できる。 ☐ 切管の有効長、管の接合、ライナーの設置について、仕様書どおり適切に施工されているのが確認できる。 ☐ 継手の施工が適切に管理されていることが確認できる。 ☐ 給水装置代替工事は、設計図書に基づき給水装置工事施工要領を遵守し施工している。 ☐ 止水栓筐、メーターますの設置においては、地面との調整が適切である。 ☐ 仮復旧及び本復旧の路盤及び表層・基層は、仕様書どおり適切に施工され管理されている。 ☐ 側溝・縁石・柵・標識等の道路付属物の復旧が適切に行われている。 ☐ その他(理由:) (推進) ☐ 推進管の推進精度が確保されていることが確認できる。 ☐ 配水管と推進管との空隙への充填材料・施工状況・充填度が適切であることが確認できる ☐ 薬液注入工は改良範囲及び注入量に係る打合せ簿等により適切であることが確認出来る。 ☐ 立坑は設計図や仕様書に沿って適切に施工されている。 ☐ その他(理由:) (溶接・塗装・防凍) ☐ 溶接施工に係る施工計画書を提出していることが確認出来る。 ☐ 溶接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。 ☐ 塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。(重ね塗りの場合も含む) ☐ 防凍工が設計図書に基づき行われていることが確認出来る。 ☐ その他(理由:)							
削除する項目にレ点		※ 評価対象項目数が2項目以下の場合はc評価とする。 ※ 適合率が 90%以上.....a ※ 適合率が 80%以上～90%未満...a' ※ 適合率が 70%以上～80%未満...b ※ 適合率が 60%以上～70%未満...b' ※ 適合率が 60%未満.....c							

3. 出来形及び出来ばえ
 Ⅲ. 出来ばえ

3. 出来形及び出来ばえ
 Ⅲ. 出来ばえ

※「成績評定工種選択表及び結果表」の、判定入力欄に入力したデータは、この帳票には反映されません。

全体評価(選択した工種全体の評価)		a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形及び出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	① コンクリート構造物工事 砂防構造物工事 海岸工事 トンネル工事	●評価対象項目 ☐ コンクリート構造物の表面状態が良い。 ☐ コンクリート構造物の通りが良い。 ☐ 天端仕上げ、端部仕上げ等が良い。 ☐ クラックが無い。 ☐ 漏水が無い。 ☐ 全体的な美観が良い。	●判断基準 該当5項目以上・・・a 該当4項目・・・b 該当3項目・・・c 該当2項目以下・・・d		
	② 土工事	●評価対象項目 ☐ 仕上がりが良い。 ☐ 通りが良い。 ☐ 天端及び端部の仕上がりが良い。 ☐ 構造物へのすりつけなどが良い。 ☐ 全体的な美観が良い。	●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目以下・・・d		
	③ 切土工事	●評価対象項目 ☐ 規定された勾配が確保されている。 ☐ 切土法面の施工にあたって、法面の浮き石が除去されているなど、適切に施工されている。 ☐ 法面勾配の変化部について、干渉部を設けるなど適切に施工されている。 ☐ 滞水などによる施工面の損傷が発生しないよう処理が行われている。 ☐ 関係構造物等との取り合いが設計図書を満足するよう施工されている。 ☐ 全体的な美観が良い。	●判断基準 該当5項目以上・・・a 該当4項目・・・b 該当3項目・・・c 該当2項目以下・・・d		
	④ 護岸・根固・水制工事	●評価対象項目 ☐ 通りが良い。 ☐ 材料のかみ合わせがよく、クラックが無い。 ☐ 天端及び端部の仕上がりが良い。 ☐ 既設構造物とのすりつけが良い。 ☐ 全体的な美観が良い。	●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目以下・・・d		
	⑤ 鋼橋工事	●評価対象項目 ☐ 表面に補修箇所が無い。 ☐ 部材表面に傷及び錆が無い。 ☐ 溶接に均一性がある。 ☐ 塗装に均一性がある。 ☐ 全体的な美観が良い。	●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目以下・・・d		
	⑥ 砂防構造物工事及び地すべり防止工事	●評価対象項目 ☐ 地山との取り合いが良い。 ☐ 天端、端部の仕上がりが良い。 ☐ 施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 ☐ 全体的な美観が良い。	●判断基準 該当4項目・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目・・・d		

考查項目別運用表

考查項目	工 種	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形 及び 出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	⑦ 舗装工事	●評価対象項目 ☐ 舗装の平坦性が良い。 ☐ 構造物の通りが良い。 ☐ 端部処理が良い。 ☐ 構造物へのすりつけ等が良い。 ☐ 雨水処理が良い。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当5項目以上・・・a 該当4項目・・・b 該当3項目・・・c 該当2項目以下・・・d	
	⑧ 法面工事	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
	⑨ 基礎工事 (地盤改良等を含む)	●評価対象項目 ☐ 通りが良い。 ☐ 植生、吹付等の状態が均一である。 ☐ 端部処理が良い。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当4項目・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目・・・d	
		a	b	c	d
	⑩ コンクリート橋上部工事	優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
		●評価対象項目 ☐ コンクリート構造物の表面状態が良い。 ☐ コンクリート構造物の通りが良い。 ☐ 天端及び端部の仕上がりが良い。 ☐ 支承部の仕上がりが良い。 ☐ クラックが無い。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当5項目以上・・・a 該当4項目・・・b 該当3項目・・・c 該当2項目以下・・・d	
	⑪ 塗装工事 (工場塗装除く)	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
	⑫ 植栽工事	●評価対象項目 ☐ 塗装の均一性が良い。 ☐ 細部まできめ細かな施工がされている。 ☐ 補修箇所が無い。 ☐ ケレンの施工状況が良好である。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目以下・・・d	
		a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
		●評価対象項目 ☐ 樹木の活着状況が良い。 ☐ 支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。 ☐ 支柱の取り付けが堅固である。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当4項目・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目・・・d	

考查項目別運用表

考查項目	工 種	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形 及び 出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	⑬ 造園工事	●評価対象項目 ☐ 施設構造物の肌、通り等仕上げが良い。 ☐ 施設構造物の収まりが良い。 ☐ 遊具等の作動が安全でかつ良好に作動する。 ☐ 園路等の舗装の平坦性が良い。 ☐ きめ細やかに施工されている。 ☐ 全体的な景観が良い。		●判断基準 該当5項目以上・・・a 該当4項目・・・b 該当3項目・・・c 該当2項目以下・・・d	
	⑭-1 防護柵工事	●評価対象項目 ☐ 通りが良い。 ☐ 端部処理が良い。 ☐ 部材表面に傷及び錆が無い。 ☐ 既設構造物等とのすりつけが良い。 ☐ きめ細やかに施工されている。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当5項目以上・・・a 該当4項目・・・b 該当3項目・・・c 該当2項目以下・・・d	
	⑭-2 標識工事	●評価対象項目 ☐ 設置位置に配慮がある。 ☐ 標識板の向き並びに角度及びその支柱の通りが良い。 ☐ 標識板の支柱に変色が無い。 ☐ 支柱基礎が入念に埋め戻されている。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目以下・・・d	
	⑭-3 区画線工事	●評価対象項目 ☐ 塗料の塗布が均一である。 ☐ 視認性が良い。 ☐ 接着状態が良い。 ☐ 施工前の清掃が入念に実施されている。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目以下・・・d	
	⑮ 下水道管路工事	●評価対象項目 ☐ 沈下がなく仮舗装の平坦性がよい。 ☐ 施工管理記録等から不可視部分の出来ばえの良さがうかがえる。 ☐ 漏れない。 ☐ 全体的な美観が良い。(管路及びマンホールの内部・本復旧の仕上がり等)		●判断基準 該当4項目・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目・・・d	
	⑯ 下水道更生工事	●評価対象項目 ☐ 管体内面の仕上げが良い。 ☐ 管体内面の通りが良い。 ☐ 施工監理記録等から不可視部分の出来ばえの良さが伺える。 ☐ 既設構造物とのすりつけが良い。		●判断基準 該当4項目・・・a 該当3項目・・・b 該当2項目・・・c 該当1項目・・・d	

考査項目別運用表

考査項目	工 種	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形 及び 出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	⑪ 水路・側溝等(コンクリート 二次製品)工事	●評価対象項目 ☐ 仕上がりが良い。 ☐ 通りが良い。 ☐ 既設構造物とのすりつけが良い。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当4項目……a 該当3項目……b 該当2項目……c 該当1項目……d	
	⑫ 機械設備工事	●評価対象項目 ☐ 主設備、関連設備及び操作制御設備が全体的に統制されており、運転操作性が良い。 ☐ きめ細かな施工がなされている。 ☐ 土木構造物、既設設備等とのすりつけが良い。 ☐ 溶接、塗装、組立等にあたって、細部に渡る配慮がなされている。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当4項目以上……a 該当3項目……b 該当2項目……c 該当1項目以下……d	
	21 電気設備工事	●評価対象項目 ☐ きめ細やかな施工がなされている。 ☐ 公共物として、安全性の確保、環境及び維持管理等への配慮がなされている。 ☐ 動作状態において、電氣的及び機械的な異常が無く、総合的な機能及び運用性が良い。 ☐ ケーブル等の接続方法及び収納状況が適切である。 ☐ 操作、保守点検等の容易さを確保するための配慮がなされている。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当5項目以上……a 該当4項目……b 該当3項目……c 該当2項目以下……d	
	⑳ 維持修繕工事 維持工事(清掃工、除草工、付属物工、除雪、応急処理工) 修繕工事(橋脚補強、耐震補強、落橋防止等)	●評価対象項目 ☐ 小構造物等にも注意が払われている。 ☐ きめ細かな施工がなされている。 ☐ 既設構造物とのすりつけが良い。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当4項目……a 該当3項目……b 該当2項目……c 該当1項目……d	
	⑲ 電線共同溝工事	●評価対象項目 ☐ 歩道及び車道の舗装(含、仮復旧舗装)の勾配が適切で、有害な段差が無く平坦性が確保されている。 ☐ プレキャストコンクリートブロックの蓋に、がたつきや不要な隙間が生じていない。 ☐ 施工管理記録などから、不可視部分の出来映えの良さが伺える。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当4項目……a 該当3項目……b 該当2項目……c 該当1項目……d	
	22 電気通信工事 受変電設備工事	●評価対象項目 ☐ 塗料の塗布が均一である。 ☐ 視認性が良い。 ☐ 接着状態が良い。 ☐ 施工前の清掃が入念に実施されている。 ☐ 全体的な美観が良い。		●判断基準 該当4項目以上……a 該当3項目……b 該当2項目……c 該当1項目以下……d	

考査項目別運用表

考査項目	工 種	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
3. 出来形 及び 出来ばえ Ⅲ. 出来ばえ	23 上水道配管工事 ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	●評価対象項目 ☐ 施工管理の記録等から、不可視部分の出来映えの良さが確認できる。 ☐ 弁室内の管の布設・接合の出来ばえが良好であることが確認できる。 ☐ 構造物(弁室・栓室等)の仕上げが良い。 ☐ 弁筐・弁室・栓室等とのスピンドルの位置・高さ合わせが良い。 ☐ 路面復旧において、既設構造物及び既設路面等との取り合いが良い。 ☐ 路面復旧の平坦性・全体的な美観が良い。 ☐ 止水栓・メーター・逆止弁等の設置において、ねじれ等が生じていない。 ☐ 宅地部の復旧は適切であり、周囲の地盤とのなじみも良く、美観が良い。 ☐ 部材表面に補修箇所、傷及び錆が無く、全体的な美観が良好であることが確認できる。(水管橋・添架) ☐ 溶接・塗装の均一性が良好であることが確認できる。 ☐ その他(理由:) ※評価対象項目数が2項目以下の場合にはc評価とする。 適合率が80%以上.....a 適合率が60%以上～80%未満.....b 適合率が40%以上～60%未満.....c 適合率が40%未満.....d			
	○ 上記以外の工事 又は合併工事	a	b	c	d
		優れている	やや優れている	他の評価に該当しない	劣っている
		●評価対象項目 ☐ 理由: ☐ 理由: ☐ 理由: ☐ 理由: ☐ 理由: ※該当工種からの評価対象項目で評価を行う。ただし、評価対象項目は最大5項目とする。			
		●判断基準 該当4項目以上・・・a 該当3項目・・・・・・b 該当2項目・・・・・・c 該当1項目以下・・・d			